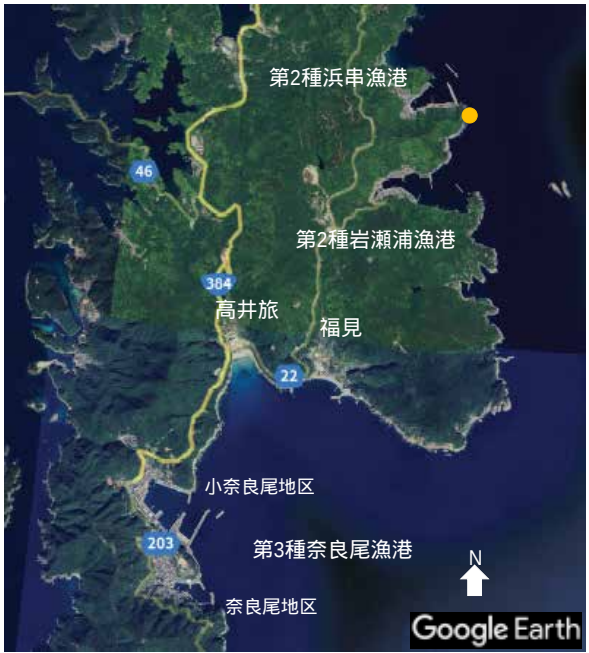
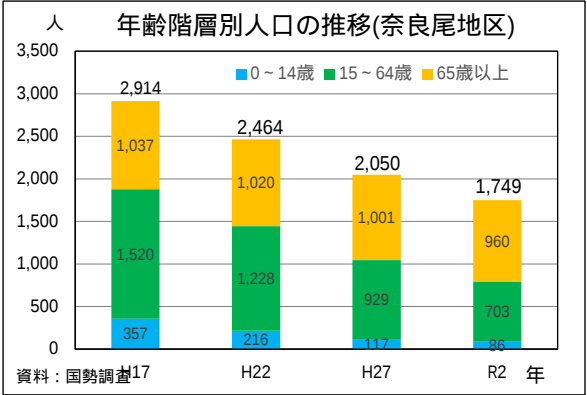
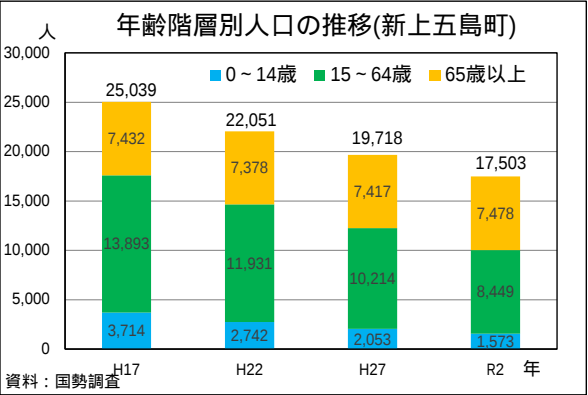
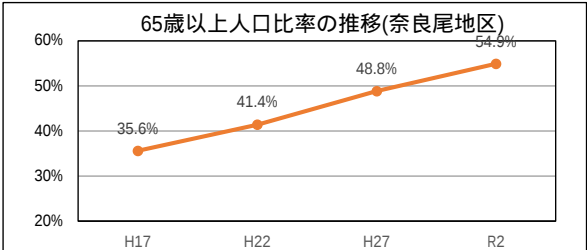
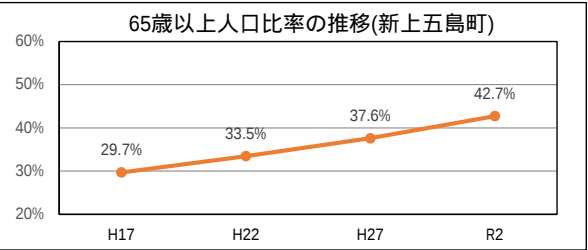


長崎県新上五島町奈良尾漁港 PR資料

奈良尾漁港の概要（現状と課題）

[地域の概要]

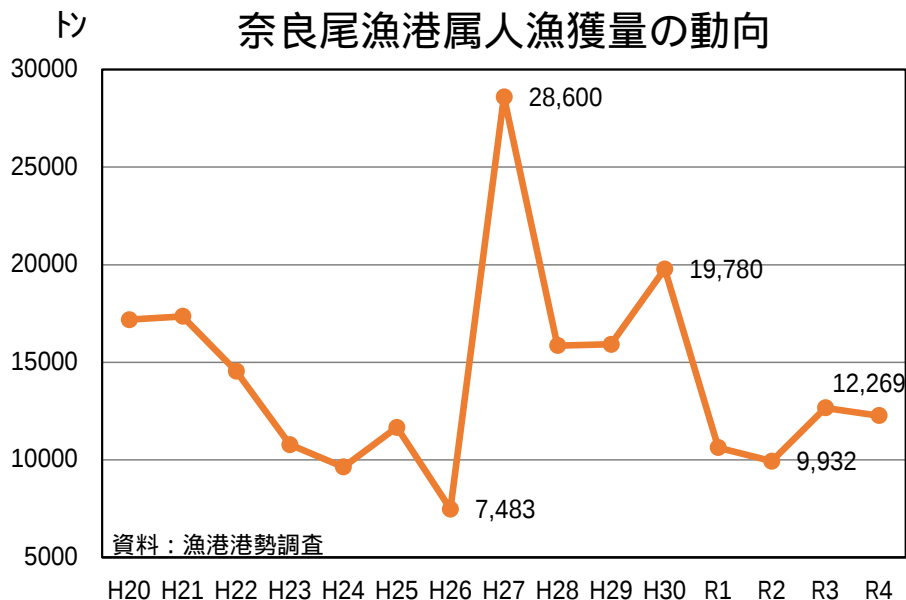
- 長崎県新上五島町は、九州の最西端に位置する五島列島の北部にあり、中通島と若松島を中心とする7つの有人島と60の無人島からなる。
- 新上五島町の人口は、令和2年国勢調査で17,503人で、平成16年の旧5町合併直後の平成17年国勢調査の25,039人に対し30%減少している。高齢人口は横ばいで推移しており、全体としては過疎化と高齢化が急激に進展している。



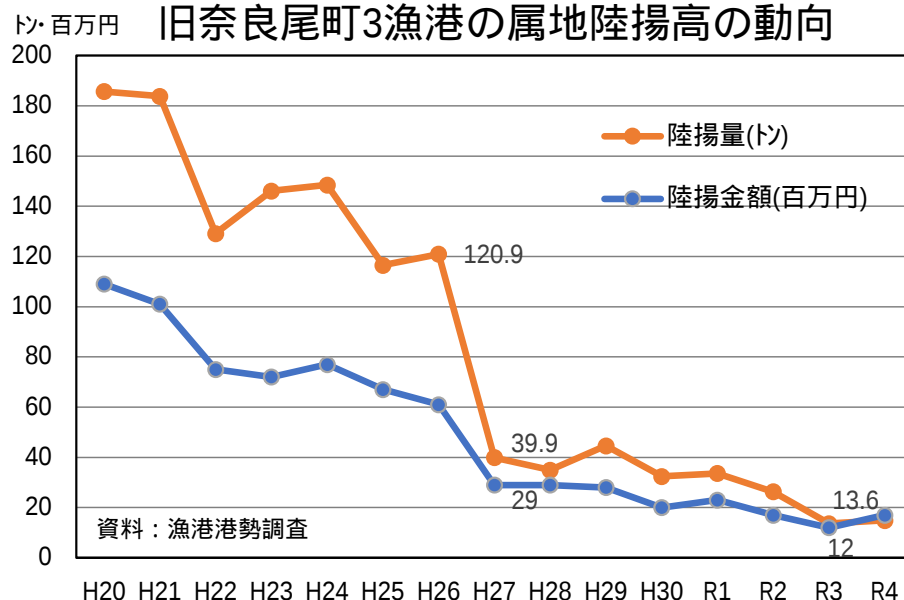
[漁業の概要]

- 五島灘・東シナ海などの好漁場に恵まれ、大中型まき網船団の基地となっており、県内有数の属人漁獲量を誇るが、最大24ヶ統稼働していたまき網船団は漁獲激減などで現在は3ヶ統に減少している。
- 厳しい資源状況下、外国人技能実習生受入れによるまき網船員確保や、沿岸漁業振興に取組み、近年も約1万トンの漁獲量を維持している。
- 一方、昭和30年代以降に整備が進められてきた岸壁、水域、漁港施設用地などが巻き網船団の減少とともに遊休化し、漁港施設の有効活用が課題である。
- 浜串漁協においては、漁場を活用したスピアフィッシング体験等の事業化に取り組んでいる。試行的な体験の実施と検証により、実施場所や対象とする魚種の整理、漁業と遊漁が共存できるルールを検討するとともに、副収入の確保による漁業者の所得向上及び漁業就業者の確保につながる仕組みづくりが課題である。

奈良尾漁港属人漁獲量の動向



旧奈良尾町3漁港の属地陸揚高の動向



[地域経済]

新上五島町の生産・販売は、全体で485億円の収入があり、そのうち労働生産性は653.2百万円/人と全国平均935.2万円/人と比較すると低くなっている。

分配は、全体で819億円の収入があり、新上五島町の地域住民所得は1人当たり468.0万円と全国平均427.3万円/人を上回る結果となっている。

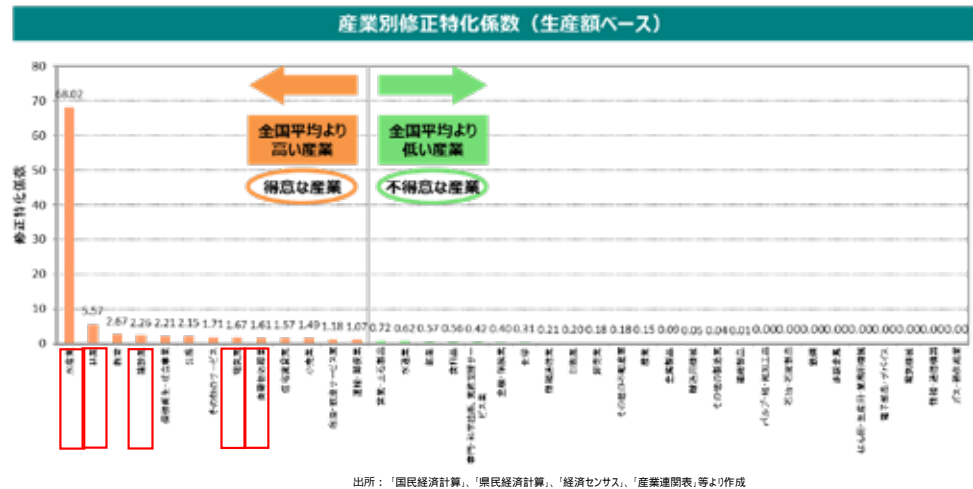
エネルギー生産性は82.8百万円/TJと全国平均88.3百万円/TJより少し低い。

支出は、全体で485億円であり、そのうち新上五島町内では消費53億円が収入となっている一方、投資33億円、経常収支354億円、エネルギー代金18億円は新上五島町外への支出となっていることがわかる。



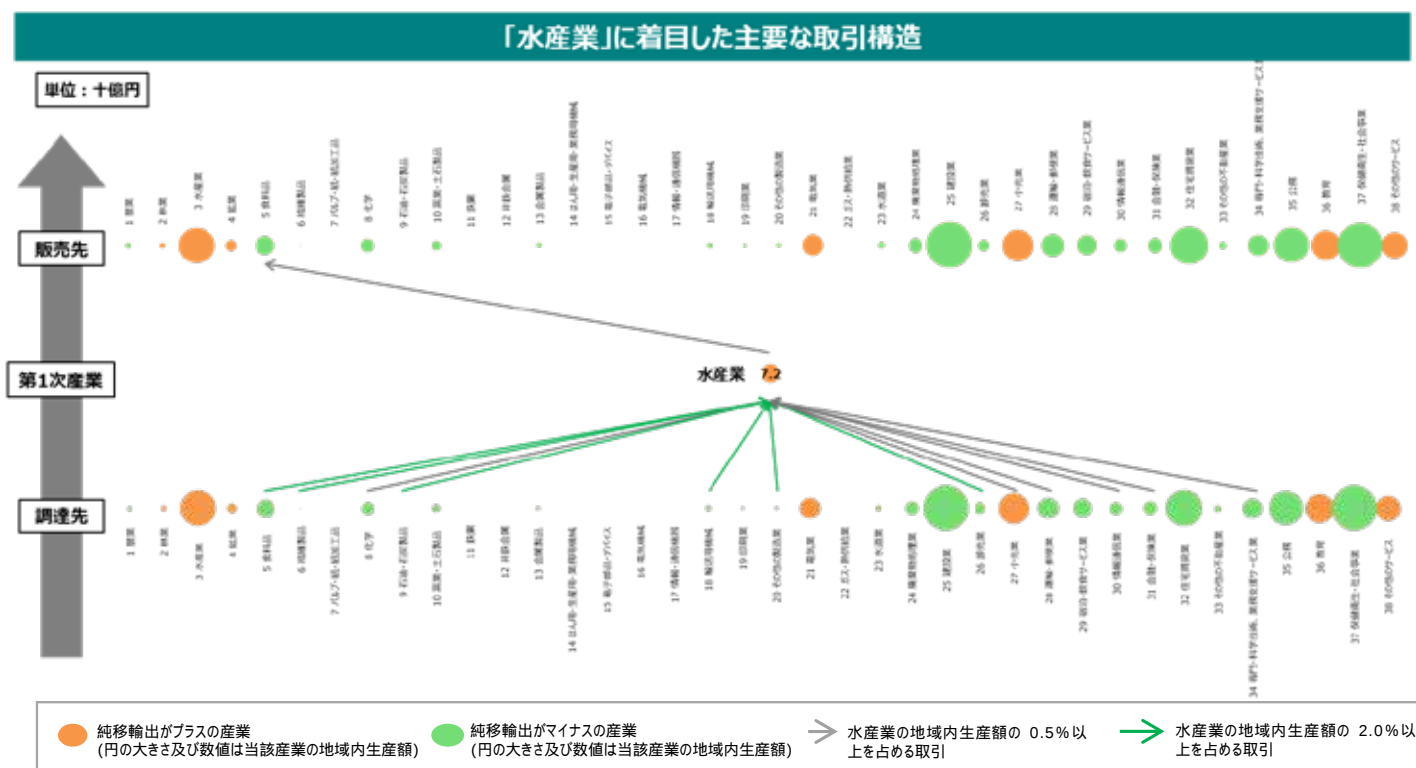
[地域経済]

- 新上五島町においては、水産業、建設業、小売業、宿泊・飲食サービス業、廃棄物処理業に比較優位性があり、付加価値額構成比も比較的高い傾向にある。
- 全国と比較して得意としている産業は水産業のほか林業、建設業、電気業、廃棄物処理業である。域外から所得を獲得している産業は水産業、小売業、電気業等で、得意な産業である。ただ、宿泊・飲食サービス業や廃棄物処理業は得意な産業であるものの所得は域外に流出している状況である。



[地域経済]

- 新上五島町の水産業は地域内生産額が72億円で純移輸出額はプラスとなっており、地域内の需要を賄った上で地域外に出荷している状況である。
- 新上五島町の水産業は、食料品、卸売業、繊維製品、輸送用機械等からの調達が高位を占め、一方販売先としては食料品向けである。
- 現状では販売先として小売業、宿泊・飲食サービス業は少なく、海業による展開可能性を検討することが課題となっている。



【目指す将来像】

海洋資源や文化を活用したおもてなしの漁村づくり

奈良尾地区の海洋資源や文化を活かした質の高いアドベンチャーツーリズムの展開、ヨット等の利用性の向上、島の玄関口としておもてなしと利便性向上により、豊かな自然との共生を図りながら、持続可能な発展が可能になる仕組みを確立する。

その結果、交流の促進や地域内消費の増進、サービス提供分野の展開等の就業機会を増やし、漁村地域に賑わいを取り戻す。

海業の方向性	海業の取組テーマ
(1)ヨット等の利用性向上策 (交流促進・就労機会拡充)	係留(ビジターバース)機能の改善・強化 寄港受入手続き・運営体制確立 給水・給電・給油等船舶補給サービス提供 寄港船へのサービス提供、イベント等受入体制確立
(2)地域内レクリエーション提供の魅力向上 (上五島アドベンチャーツーリズム展開) (交流促進・就労機会拡充)	スピアフィッシング体験体制確立 その他のマリンレジャー提供体制確立 地域内の交通・移動手段提供体制強化
(3)島の玄関口のおもてなし・消費促進サービスの強化 (消費増進・交流促進)	新鮮食材の上質な提供環境の整備 地場水産物の高鮮度・安定供給体制整備 消費時間を広げる魅力的な宿泊環境充実 美化活動の普及・強化 ターミナル(海の駅)の案内・情報発信機能強化

海業の事業計画骨子【長崎県新上五島町奈良尾漁港】

1. 現状と課題

【地域・水産業の現状と課題】

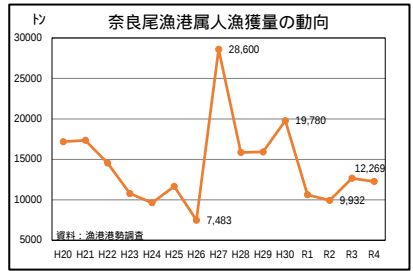
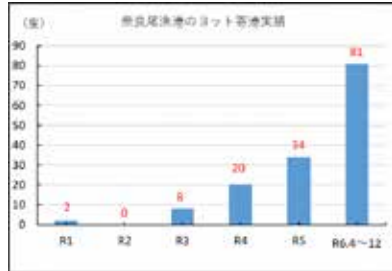
- 奈良尾漁港は町域南部の中通島南東部に位置し、長崎市や福江島と結ぶ航路のターミナルが立地する**島の玄関**となっている。
- **五島灘・東シナ海などの好漁場**に恵まれ、**大中型まき網船団の基地**となっており、**県内有数の属人漁獲量**を誇るが、最大24ヶ統稼働していたまき網船団は**漁獲激減**などで現在は3ヶ統に減少している。
- 厳しい資源状況下、外国人技能実習生受入れによる**まき網船員確保**や沿岸漁業振興に取組み、**近年も約1万トンの漁獲量を維持**。
- 一方、小奈良尾地区の**岸壁、水域、漁港施設用地**などがまき網船団の減少とともに**遊休化**し、漁港施設の有効活用が課題となっていたが、**積極的な活用には至らない状況**であった。

【海業の現状と課題】

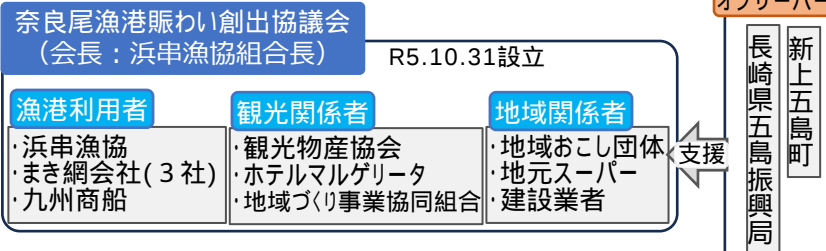
- 「海業」推進制度創設をきっかけに、**漁村活性化の機運**が高まり、**地域関係者の連携**により「**奈良尾漁港賑わい創出協議会**」が設立された。
- 協議会では、県、町もオブザーバー参画し、官民が連携して、スピアフィッシング 体験など、**アドベンチャーツーリズム**の展開や、ヨット、クルーザー、ブレイジャーボート、遊漁船等の**寄港増**などの取組を推進することとしている。
- さらに、交流人口拡大や水産物を中心とした**地場製品の消費拡大**を図り、**所得向上と就業機会の創出**につなげ、**賑わいを取り戻す**ことを目指す。
- **スピアフィッシング体験**の実施にあたっては、漁業者が資源管理対象に取り組んでいるクエ等高級魚が漁獲される不安、漁船と体験者間の海難事故発生の懸念があり、関係者との調整、**漁業と遊漁のルールの確立が課題**。試行的な体験実施と検証を行い、**ブラッシュアップ**することが必要。
- **地域内の協調体制を構築**し、交流促進のみならず移住者の増加による組合員確保や育成も視野にいたれた展開が期待されている。



素潜り等で「もり」で魚を突く水中スポーツ



2. 検討体制



海業の事業計画骨子【長崎県新上五島町奈良尾漁港】

3. 海業の方針

【目指す将来像】 海洋資源や文化を活用したおもてなしの漁村

奈良尾地区の海洋資源や文化を活かした質の高いアドベンチャーツーリズムの展開、ヨット等の利用性の向上、島の玄関口としておもてなしと利便性の向上により、豊かな自然との共生を図りながら、持続可能な発展が可能になる仕組みを確立する。

最終的には、交流の促進や地域内消費の増進、地域の就業機会を増やし、漁村地域に賑わいを取り戻す。

【取組】

- 「食べる・くつろぐ」：交流促進を通じた消費増進の基盤となる飲食環境・滞在環境の魅力向上と地元水産物を安定的に供給できる体制を検討
- 「遊ぶ・学ぶ」：地域の特性を活かしたアドベンチャーツーリズム等の体験型レクリエーション提供メニューの構築、展開
- 「育てる・守る」：玄関口としておもてなしと利便性向上の拠点エリア形成と担い手人材育成、美化活動の推進

4. 海業の具体的な取組・実施主体（案）・期待される効果

ヨット等の利用性向上策の実施(協議会全体)
利用し易い係留場所・施設の設定・整備を推進するとともに、寄港船への給水・給油・給電等のサービス及び、貨物・ごみ処理等支援サービス提供体制の確立を図る。

【期待される効果】

- ヨット等利用者との交流の拡大
- 観光消費額の増大
- サービス提供分野の就業機会拡大

スピアフィッシング体験等の体制確立(浜串漁協)
利用提供漁場(場所・時期)の設定と、漁業者による案内体制の確立を図る。

スピアフィッシング体験提供の試行実施・検証

【期待される効果】

- 漁業者案内による漁家副業所得向上
- 漁業就業者の確保
- レク目的重視による漁獲負荷軽減・資源保全向上
- 来訪・滞在客増大による消費拡大

玄関口のおもてなし拠点エリアの形成(協議会全体)
美化意識を拡げるゴミ袋配布、水産物販売・飲食提供機能によりおもてなし基盤の強化を図る

地元水産物を安定的に供給できる体制を検討

【期待される効果】

- 水産物等地場産物消費及び観光消費の拡大
- 就業機会拡大
- 来訪者のゴミマナー意識啓発



各事業の概要（現時点での想定）

（1）ヨット等の利用性向上策の実施

- 事業の概要： 利用し易い係留場所・施設の設定・整備を推進するとともに、寄港船への給水・給油・給電等の補給、買物・ごみ処理等支援サービス提供の強化を図る。また、ヨットレース等の受入れ体制の確立を図る
- 事業主体： 協議会全体
- 実施時期： 令和6～8年度施設（浮棧橋）を整備。整備後の受入体制を整える。
- 取組内容： ①係留（ビジターバース）機能の改善・強化
 - 浮棧橋（駐在所前＝D岸壁）整備（15m×2バース）
 - 荷捌所前D浮棧橋活用 20m×1バース（漁船用1バースと併用）
 - Jフォイル用B浮棧橋活用 12.5m×2バース
 - 寄港受入手続き・運営体制確立
 - 入出港・係留管理・サービス提供プラットフォームシステム導入
 - 外来漁船利用対応との一体的対応構築
 - 寄港船へのサービス提供、イベント等受入体制確立
 - 給水・給電設備整備（駐在所前＝D岸壁）
 - 給水・給電・給油等船舶補給サービス提供体制確立
 - ゴミ回収サービス提供体制確立
 - 買物等支援サービス提供体制確立
 - ヨットレース等のイベント受入体制確立
- 寄港見込み隻数・人数： 260隻/年、1,040人/年（週間平均寄港隻数5隻/週想定）
- 期待される効果： ヨット等利用者との交流の拡大、観光消費額の増大、サービス提供分野の就業機会拡大

各事業の概要（現時点での想定）

（２）スピアフィッシング体験等の体制確立（上五島アドベンチャーツーリズム展開）

- 事業の概要：スピアフィッシング体験等の実施に向け、利用提供漁場(場所・時期)の設定や、漁業者による案内体制の確立、受付・発着場所の整備を図る。また、民泊による体験機会提供等の魅力強化を図る。
- 事業主体：漁協、協議会、遊漁案内業者
- 実施時期：令和6年度にルール設定・試行を経て令和7年度以降に運用体制を整備し本格稼働を目指す
- 取組内容：①スピアフィッシング体験体制確立（漁協、協議会）
 - 体験ルール設定(漁場・期間・報告等)
 - 受付・案内・サービス提供、用船提供、装備・サービス提供、情報発信
 - その他のマリンレジャー提供体制確立（遊漁案内業者）
 - 海洋・水産学習体験提供、漁家民宿宿泊体験提供
 - 用船提供、装備・サービス提供、情報発信
- 利用目標稼働数：案内稼働延べ日数100日/年、年間案内客数400人/年（平均4人/回想定）
- 期待される効果：漁業者案内による漁家副業所得向上
 - レク目的重視による漁獲負荷軽減・資源保全向上
 - 来訪・滞在客増大による消費拡大
 - 漁業就業者の確保

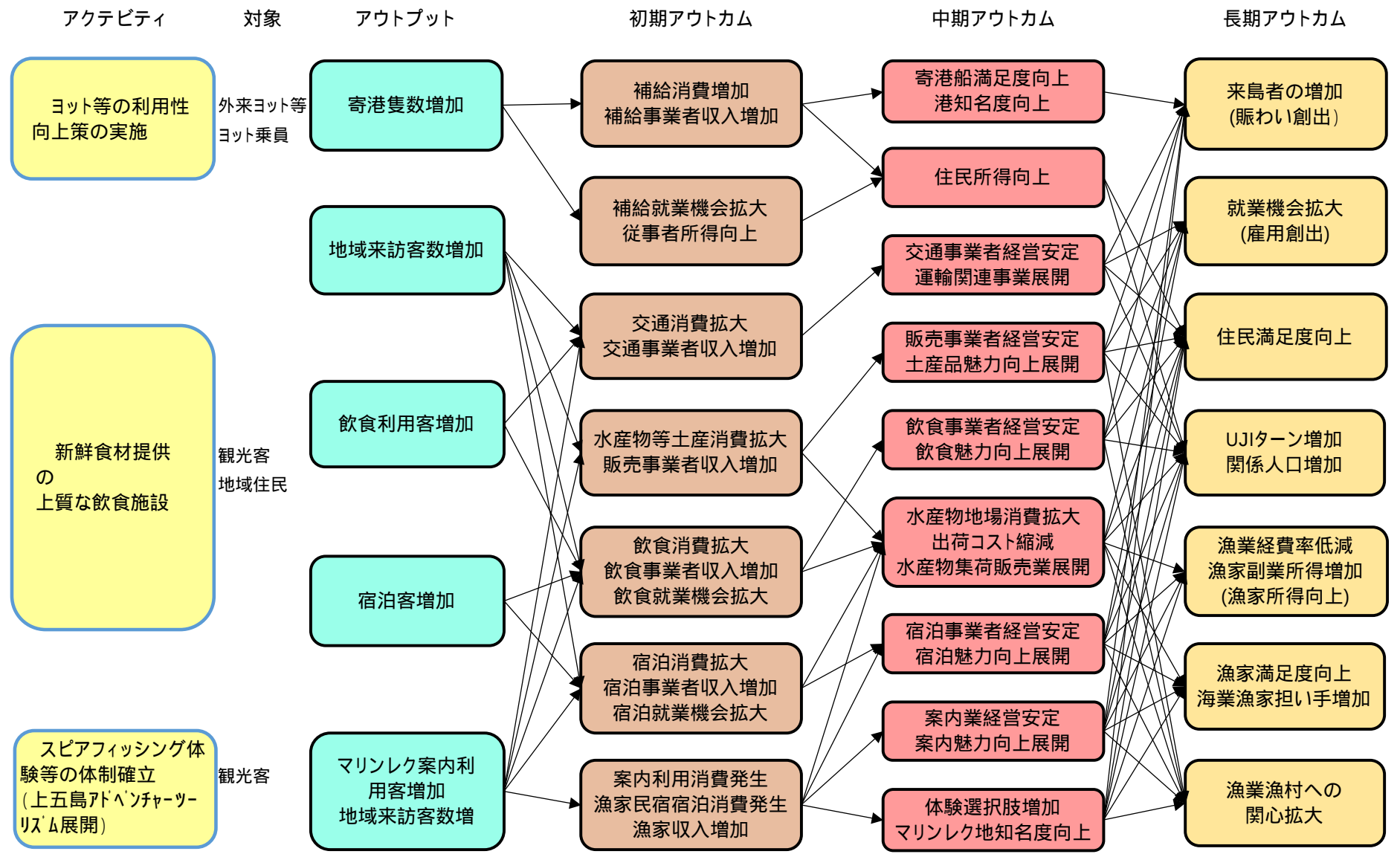
各事業の概要（現時点での想定）

（３）玄関口のおもてなし拠点エリアの形成

- 事業の概要：新鮮食材の上質な提供環境整備の一環として、まき網漁業会社が漁獲したアジや町内地場産魚を、漁港背後の民有地において提供する施設を整備する。
- 事業主体：地元まき網漁業会社
- 実施時期：令和6年度に建設・開業
- 施設規模：飲食部門計画席数18席、宿泊部門計画室数シングル2室、正職員1名・パート4名
- 利用想定稼働数：飲食客数 1,800人/年（平均6人/日×25日/月×12ヶ月）
宿泊客数 540人/年（平均1.5人/日×30日/月×12ヶ月）→これだと年間820万円の赤字
- 利用目標稼働数：飲食客数10,800人/年（平均36人/日×25日/月×12ヶ月）
宿泊客数 540人/年（平均1.5人/日×30日/月×12ヶ月）→これだと年間220万円の黒字
- 期待される効果：水産物等地場産物消費及び観光消費の拡大
就業機会拡大

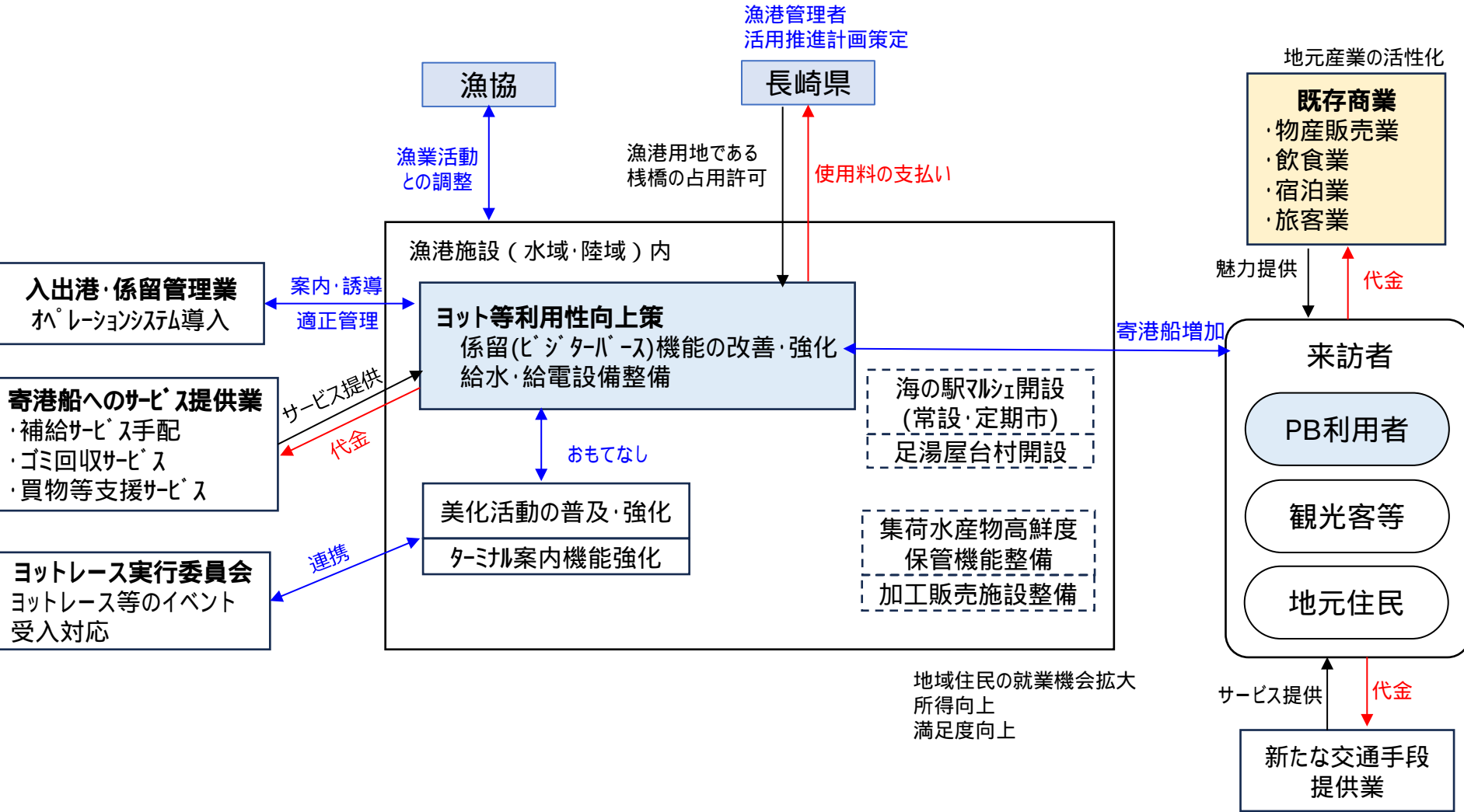
期待される効果

(1) 事業効果のロジックモデル



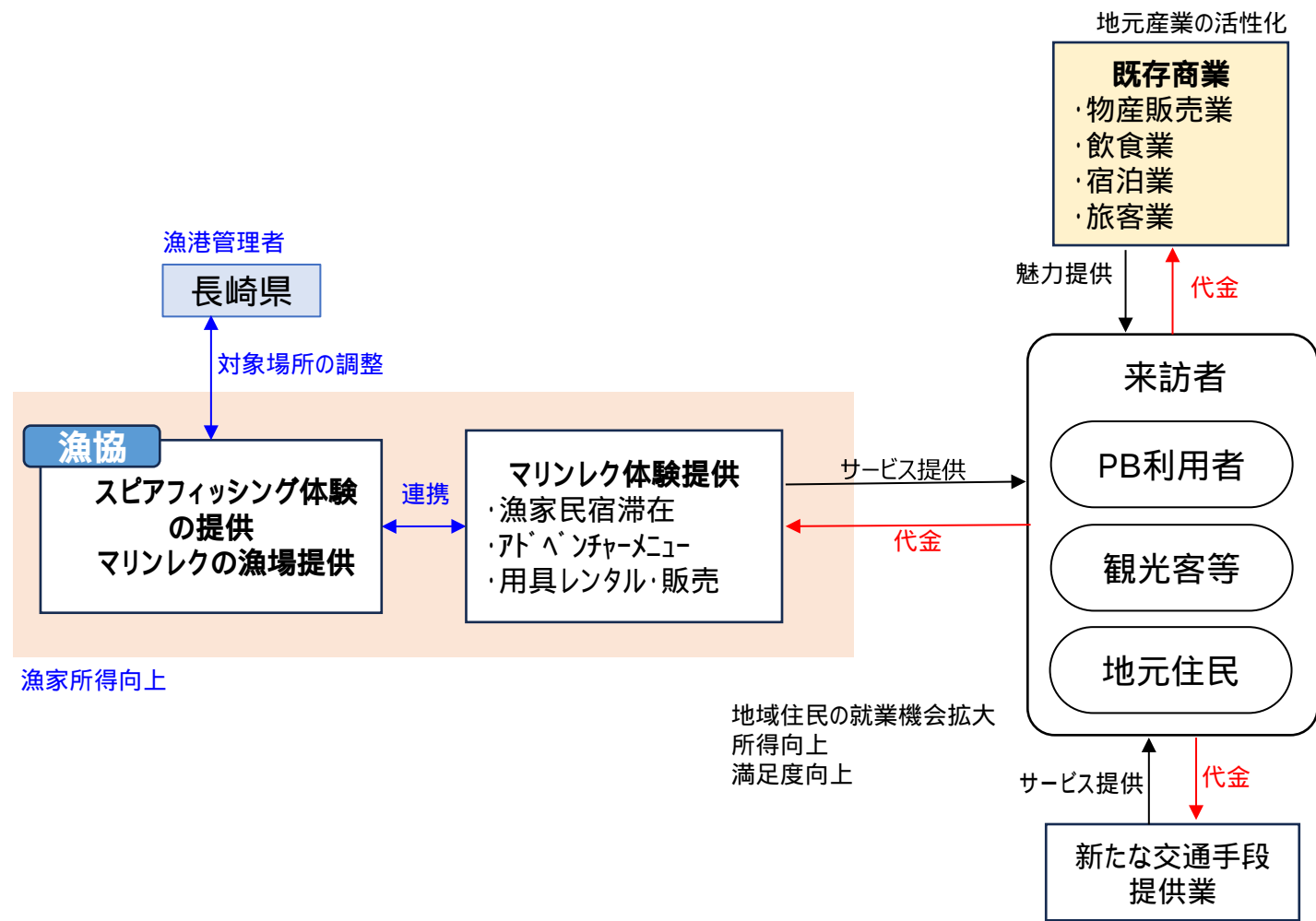
期待される効果

(2) 海業の関係主体間の経済関係-1 ヨット等の利用性向上策



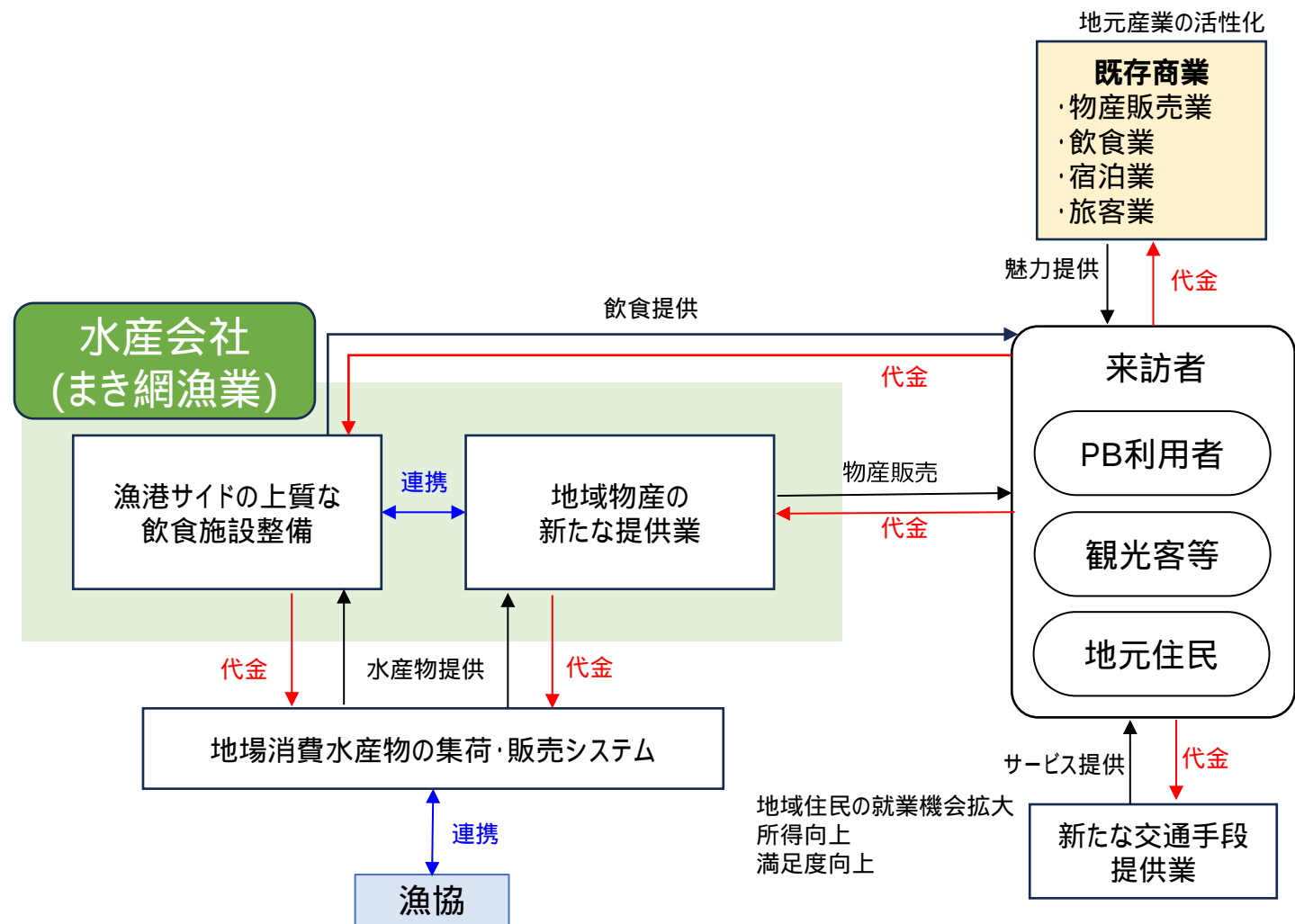
期待される効果

(2) 海業の関係主体間の経済関係-2 スピアフィッシング体験等の体制確立

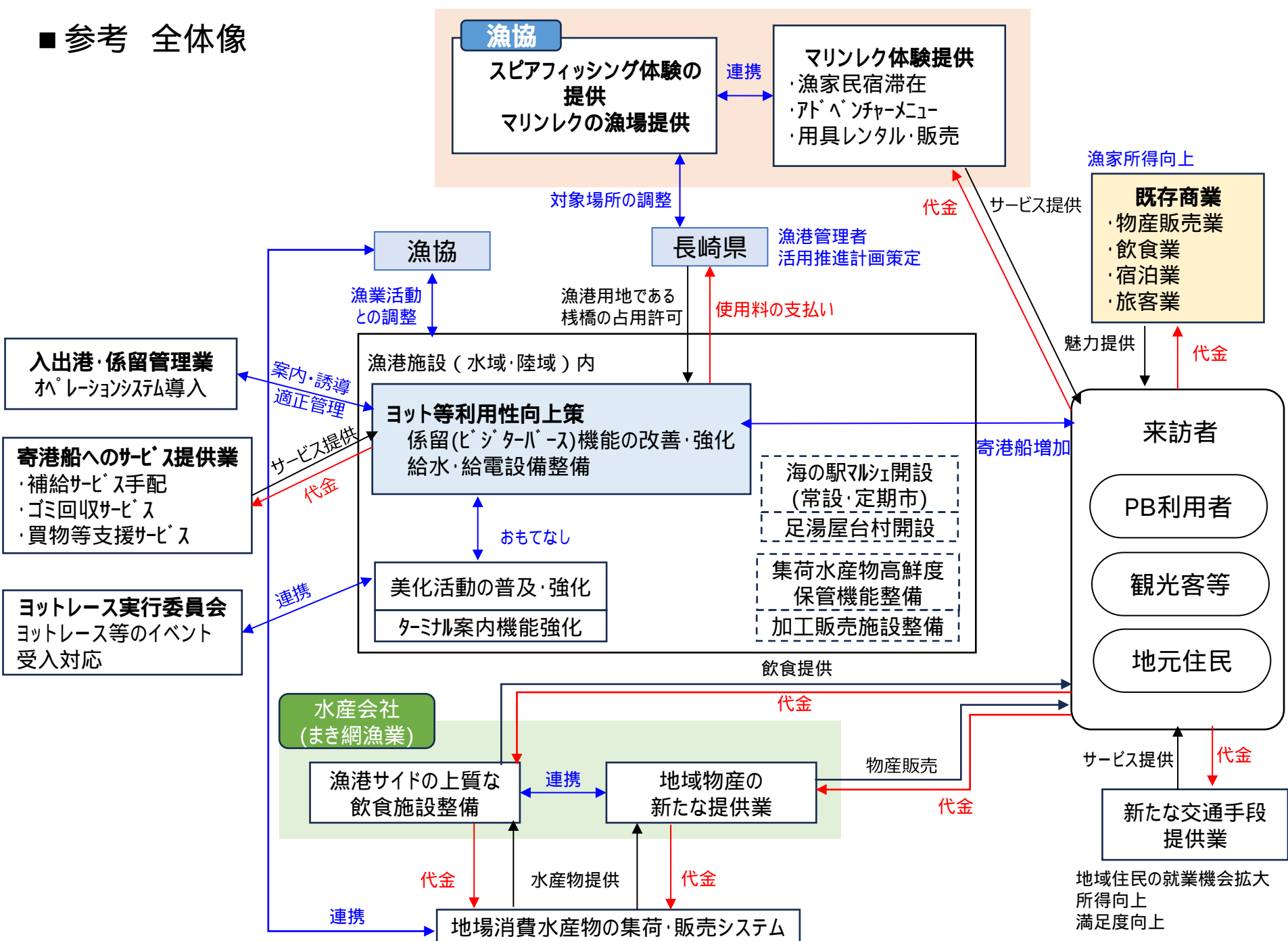


期待される効果

(2) 海業の関係主体間の経済関係-3 玄関口のおもてなし拠点エリアの形成



■ 参考 全体像



期待される効果

(3) 各事業の経済規模

ヨット等利用性向上策の経済波及関係						
■ 利用状況想定	年間寄港隻数	260隻/年	年間寄港客数	1,040人/年		
■ 消費規模試算	平均消費額	58,000円/人	宿泊費	20,000円/人	交通費	18,000円/人
			飲食娯楽費	17,000円/人	土産代	3,000円/人
	合計年間消費額	60,320千円/年				
	関連波及消費額(賃金)	12,100千円/年	人件費率想定	20%		

スピアフィッシング体験等の展開による消費拡大						
■ 稼働状況想定	年間延べ稼働日数	100日/年	年間案内客数	400人/年		
■ 消費規模試算	マリンレク案内利用消費額	5,000千円/年	案内料金	50,000円/隻		
	民泊利用体験消費額	4,000千円/年	宿泊料金	10,000円/隻		
	合計年間消費額	9,000千円/年				
	関連波及消費額(雇用賃金)	1,200千円/年	人件費率想定	14%	R5個人企業経済調査サービス業	

漁港サイドの新鮮食材提供の上質な飲食施設整備						
■ 稼働状況想定	年間飲食利用客数(18席)	10,800人/年	平均客数	36人/日	稼働日数	25日/月
	年間宿泊部門客数(2 室)	540人/年	平均客数	1.5人/日	稼働日数	30日/月
■ 売上規模試算	飲食部門売上額	27,000千円/年	案内料金	2,500円/隻 (昼1000円・夜4000円想定)		
	宿泊部門売上額	5,400千円/年	宿泊料金	10,000円/隻		
	合計年間売上額	32,400千円/年				
	関連波及消費額(雇用賃金)	9,760千円/年	正社員1人、パートスタッフ4人			
	人件費以外の経費想定	20,440千円/年				
■ 事業利益		2,200千円/年				

実施に向けたタイムスケジュール案

取組・事業	実施(整備・運営)主体・担い手	活用したい支援事業	実施時期(年度)												
			短期					中期					長期		
			R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16		
1. 前提(漁港内での海業及び海業支援事業計画の策定)															
(1)奈良尾漁港活用実施計画策定	事業者	海業取組促進事業													
(2)奈良尾漁港施設活用推進計画策定	漁港管理者(県)														
(3)奈良尾漁港水産基盤整備事業計画策定	漁港管理者(県)	水産基盤整備事業													
2. 海業推進の施設整備・利活用等の取組み															
(1)ヨット等の利用性向上策															
係留(ピシター・ハース)機能の改善・強化	漁港管理者、協議会全体	水産基盤整備事業													
給水・給電設備整備(駐在所前=D岸壁エリア)	漁港管理者	水産基盤整備事業													
入出港・係留管理オペレーションシステム導入	町、協議会、民間委託														
寄港船へのサービス提供、イベント等受入体制確立	協議会														
(2)スピアフィッシング体験等の体制確立 (上五島アドベンチャーツーリズム展開)															
スピアフィッシング体験体制確立	漁協	海業取組促進事業													
その他のマリンレジャー提供体制確立	協議会、漁協、民間事業者	海業取組促進事業													
地域内の交通・移動手段提供体制強化	観光物産協会														
(3)島の玄関口のおもてなし・消費促進サービスの強化															
漁港サイドの風情重視レストラン整備	民間事業者														
海の駅マルシェ(常設・定期市)・足湯屋台村の実施	協議会・民間事業者														
水産物加工販売施設整備	民間事業者														
旧旅客ターミナル用地の利用性重視宿泊所整備	民間事業者														
寄港船へのゴミ袋配布と有料回収サービス	協議会														
ターミナル周辺ゴミ拾い活動イベント	協議会														
月夜間夜市継続・育成	町、民間事業者														
ターミナル(海の駅)の案内・情報発信機能強化	協議会、町														